

公的統計の総合的品質向上に向けて（仮称）
（構成案）

I はじめに

II 建設工事統計事案に係る分析と評価

- 建設工事統計事案の概要
- 統計作成における重大インシデントと建設工事統計事案の評価
- 建設工事統計事案についての分析と教訓
- これまでの政府の取組との関係

III 統計作成プロセスにおけるリスクと取組の方向性

- 建設工事統計事案から抽出されたリスク
- リスクをもたらす統計作成プロセスの特徴
- 取組の方向性についての検討

IV 今後の取組

- 業務マニュアルの整備・共有とPDCAサイクルの推進
- 変更管理の取組の導入
- 地方公共団体や民間事業者との十分な意思疎通の確保
- 誤りの発見・発生時の適切対処の組織風土の定着、徹底、備え
- 業務マニュアルに記載のない事態が生じた場合の対応
- 遅延調査票の取扱い
- デジタル化の推進
- 品質優先の組織風土の定着に向けたマネジメント能力の向上と人材育成
- 各府省の体制強化
- 中央統計機関の相談対応の充実と体制強化

※ これらの項目は、基本的に、①具体的な取組内容、②取組みの必要性等及び③『点検・確認』からわかったこと、の順に記述することを想定

V 報告提出後の対応

VI おわりに

I～Ⅲの内容の骨子（イメージ）

（目次）

I はじめに

- 建設工事統計事案は重大インシデントであり、大変遺憾
- 本事案から抽出したリスクは、多様な業務を含み、多くの人間が関与する統計作成プロセスの特徴に起因。リスクに着目した対策に取り組むことが、公的統計全体における重大インシデントの発生の抑止に有効という観点から、点検・確認を行い、議論を深めた。
- 重大インシデントの発生抑止、公的統計の品質向上のためには、各府省のトップマネジメントの立場にある幹部職員の取組みが不可欠
- 幹部職員には、エラーを「悪」とするのではなく、その発生を隠すことが「悪」であるという意識を浸透させ、風通しのいい組織風土を形成していただきたい。
- 公的統計の作成は、国民からいただいた情報を、有用な統計として国民にお返しする仕事であり、統計の品質向上は、情報を提供くださった国民に対する責務である。

II 建設工事統計事案に係る分析と評価

1 建設工事統計事案の概要

- 建設工事統計事案が明らかになった後の、国交省及び総務省の対応を記述するとともに、同事案には、二重計上、誤り発覚後の不適切な対応、書換え・消去という問題がある

2 統計作成における重大インシデントと建設工事統計事案の評価

- 公的統計における「重大インシデント」とは、社会的に大きな影響を及ぼすような問題が発生し、公的統計に求められている役割を果たせなくなるような状況とし、建設工事統計事案は重大インシデントにあたる
- 重大インシデント抑止のためには、それに至る前のインシデント発覚時の対応など、統計作成プロセス改善のための日常的な活動が重要

3 建設工事統計事案についての分析と教訓

- 建設工事統計事案からわかったこととして、次のものが挙げられる。
 - ・統計作成プロセスの様々な段階で問題が発生しうること
 - ・業務プロセスの一部を変更する際には、他のプロセスへ影響し得ることを認識し、業務プロセスの全体像・手順の確認が必要
 - ・数値の事後的な検証や、誤り数値があった場合の遡及改定のために、データ保存が重要
 - ・誤り発生時の的確な対応が重要

4 これまでの政府の取組との関係

- 毎月勤労統計事案以後に開始された取組みは、確実に実施されていれば、建設工事統計事案が重大インシデントとなることは防げたと考えられる。一方で、取組が浸透途上、リソースの制約などにより、実際には発生してしまったもの
- 一方で、これまで指摘されていなかった、業務プロセスの一部の変更が他の業務プロセスに影響することで引き起こされる問題も確認

Ⅲ 統計作成プロセスにおけるリスクと取組の方向性

1 建設工事統計事案から抽出されたリスク

- 建設工事受注動態統計調査の統計作成プロセスから、次のリスクを抽出
 - ①統計作成の様々なステップでヒューマンエラーが発生するリスク
 - ②調査方法や集計方法を変更する際に別の不具合を引き起こすリスク
 - ③幹部が全体管理、業務マネジメント、問題発生時のマネジメントを誤るリスク
 - ④問題の認識・対応見直し体制まで含めた必要な職員体制や、専門性・熟練性を備えた体制を確保できないリスク
 - ⑤誤りが継続するとともに時間が経過して遡及訂正が困難となるリスク
 - ⑥社会、環境、技術の変化に対応した手法のチェック・見直し・改善が行われないリスク

2 リスクをもたらす統計作成プロセスの特徴

- 一般的な統計作成プロセスが有する次の特徴により、リスクがもたらされる
 - ・性格の異なる多くのステップから形成され、各ステップに様々な立場の者が携わる「総合プロジェクト」となっている、
 - ・作成された統計は時系列比較で活用されるため、同じ作成プロセスが長期・継続的に繰り返される

3 取組の方向性についての検討

- 重大インシデントの抑止のためには、統計作成プロセスの特徴からもたらされるリスクを顕在化させないことが必要。リスクの顕在化を抑止する、以下の取組を念頭に『点検・確認』を実施
 - 1 業務マニュアルの整備・共有とPDCAサイクルの確立
 - 2 変更管理の取組の導入
 - 3 地方公共団体や民間事業者との十分な意思疎通の確保
 - 4 誤りの発見・発生時の適切対処の徹底と備え
 - 5 業務マニュアルに記載のない事態が生じた場合の対応
 - 6 遅延調査票の取扱い
 - 7 デジタル化の推進
 - 8 品質優先の組織風土の定着に向けたマネジメント能力の向上と人材育成
 - 9 各府省の体制強化
 - 10 中央統計機関の相談対応の充実と体制強化